

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500294		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム 新賀		
所在地	笠岡市新賀3220-25		
自己評価作成日	H31年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500294-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切に、1人1人の希望を尊重したケアを提供いたします。」の理念を基にご本人様やご家族様の想いを受け止める様に、関わりをもつ姿勢を大切にしている。
 ・季節感を感じられるように、様々な行事を行ったり、花やインテリアにも、四季を感じてもらっている。
 ・家族交流の為、年に2回(春・秋)家族会を行っている。
 ・食事に関して、味や食感、見た目(器)に注意しながら、食事に制限がある方でも、本人やご家族様の希望に添えるように、食事形態を工夫して提供している。
 ・兼務の看護師が在籍しており、日々の中で変化があれば、医療機関と連携をとり、出来る範囲は限られるが、最善のサポートを心掛けている。(看取りにおけるケアも含める)
 ・キャリアアップを図る為、全職員が研修に参加したり個々で勉強会を開いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年一番のトピックスは、生き生きとした表情で楽しそうに漬物の話をするIさんを見て、職員も一緒に漬物作りに取り組んだ。先生はもちろんIさんだ。教える事で使命感や達成感が得られ生き生きとした生活が出来ている。その成果を「Iさんの輝ける時間」『～ぬか漬けを漬けよう！～』というテーマで老人保健施設現場実践報告会で発表したところ見事金賞に輝いたという話を聞き、一人の職員の発案が様々な波及効果をもたらした。Iさん自身の自己実現につながった素晴らしい事例だと思った。このホームの一番大切にしている事は「最後まで口から、好きなものを、好きなだけ」食べてもらう事であり、食べる事が生きる力、意欲につながっている。亡くなる1週間前まで皆と一緒に同じものを食べ、好きなものを食べて、安らかに旅立った例もある。それは「その人らしく生きることを支援する」という法人の理念であり、個別ケアにこだわり、実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切にし一人一人の希望を尊重したケアを提供いたします」を理念とし、いつも目にする事が出来る場所に掲げている。ケアに対しても、すぐに振り返れるように職員同士で常に話し合っている。	理念の中にある「その人らしさ」の一つの表現方法として、「お洒落」をする事を大切にしており、一人ひとりの個性に合わせて身だしなみを整えている。また、個別ケアに重点を置き、職員は利用者それぞれの思いを尊重しながらその人らしく生きる支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域サロンの参加や秋祭りのお神輿の見物をしたり、同法人の老健や病院のイベントに参加して交流の機会を増やしている。	地域の民生委員のお誘いもあり、「棕の木サロン」「大井サロン」等に定期的に参加して、地域の人や子供たちと交流している。ハロウィンの時、仮装した保育園児の訪問があり楽しいひと時を過ごしたり、複数の施設がある法人の敷地内が一つの地域を形成しており、日々そこで出会う人達との交流もある。	住宅地から離れた立地条件もあり地域の人がホームに来るのは難しいと聞いていたが、老健のイベントや祭りには地域の人参加もあり、利用者も一緒に楽しんでいるので、更に一歩進めてGHにもボランティアが訪問してくれる方法や工夫を皆で考えて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域で行われているサロンに参加し、そこで必要に応じて情報の発信に努めている。また、同法人の老健で月に1回行われるリーダー会議に参加し、日々の出来事を議事録で提出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、民生委員や地域市職員などにグループホームの取り組みを報告し、質問があれば応えたり、意見が出ればサービスの向上に反映させられるように努めている。	同敷地内に隣接する法人の4つのグループホーム合同で定期的開催している。ホームの活動や利用者の状況等を話し合い、参加者と情報交換や意見交換をする他、4GHの共通議題である災害対策や合同イベント等も協議している。	運営推進会議に家族の参加がないのは、4GHの共通の課題であるが、例えば、順番制にしたり誘い方の工夫をする等して、一人でも参加してもらえるように検討してみてください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に相談をしたり、それ以外で曖昧な点があればその都度、市役所に電話をしたり訪ねる等、協力関係を深めている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、日頃の活動やホームの実情はよく理解してもらっている。種々の体制加算、事故報告書等の書類関係で市の担当者に相談したり、アドバイスをいただく機会もあり、何かあれば連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の老健で開かれている委員会や勉強会の他に、キャリア形成訪問指導に参加し、正しい理解ができるように学んでいる。事例検討を重ね、ケースごとの工夫を相互に話し合い、グループホームでの対策に活かしている。	玄関の施錠はなく自由に出入り出来、身体拘束を必要とする人もいない。身体拘束委員会があり、身体拘束・虐待・スピーチロック等の研修を小まめに開催し、職員間で共通の認識を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人の老健で開かれている委員会や勉強会の他に、キャリア形成訪問指導に参加し、正しい理解ができるように学びケアの見直しをお年寄りの状態に合わせて随時、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度の引き続きで、キャリア形成訪問指導にて「成年後見制度のつなぎ方」について、適切な支援に結びつけるための知識を持っておく必要性を改めて学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその御家族に書類を見てもらいながら、解りやすい言葉で説明するように努めている。不安な事や疑問点等がないか間に尋ねて理解や納得が出来るようにしている。また、御家族との相談内容は記録に残し、職員同士で情報共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明の時は必ず職員が付き添い、近況の報告もしている。御家族から要望や質問をしやすいような関係を築くように努め、すぐに全職員が対応出来るように申し送りノートに記入している。玄関には「ご意見ポスト」を設置している。	家族の面会時や電話等でやりとりした職員と家族との会話の内容(相談・報告・要望等)を記録に残し、職員間で共有している。毎年実施している家族会には多くの参加があり、サンマ会は恒例行事となっている事が写真からも確認出来る。家族の意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常で意見や提案を出しやすい関係性が出来ている。情報共有は申し送りノートを活用している。また、月に1回はミーティングを行い、利用者のケアに対する方向性を見直している。	法人内の異動はあるが、勤続年数の長い職員も多いので、コミュニケーションがよく取れ、お互いの意思疎通が図れている。また、毎月のミーティングでは職員同士で意見を出し合い、より良い介護に向けての話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲を持って労働できるように利用者と一緒に職員も楽しめるイベントを計画したり、急な出来事もフォローしあえる関係性が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の老健やグループホーム協会からの情報から、職員1人1人に合った研修や勉強会に参加してもらい、介護に必要な知識や技術を向上している。その際は、研修ノートに記入して、ミーティングで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホーム間で定期的に部会(意見交流会)を設け、また、研修を受け入れて意見交換を図り、ケアの改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の状況について情報を入力し、生活リズムを崩さないようにしている。入居時には本人の想いを気にかけて、出来るだけ不安を感じることがないように寄り添い、声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時において御家族に対して不安な点や要望などを聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格や日々の過ごし方、要望などの情報を本人または御家族から聴き、また専門職としての所見も交え、利用者や御家族に支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係の形成に努め、共に生活する者同士として楽しくまた、安心して過ごせるように尊重し、職員が必要に応じて間に入り、交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との繋がりを大切に考え、行事の際は全利用者の御家族に手紙で報告している。又、日々の面会も気軽に来てもらえるように努めている。その際は、本人の居室や落ち着いた環境で過ごしてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方が来られた時は居室に案内したり、落ち着いた環境で楽しく過ごしてもらえるように努めている。	老健からGHIに来たAさんはネコが大好きで、時々家族が自宅に連れて帰って愛猫の「アンコちゃん」と触れあって喜ばれているようだ。同敷地内のケアハウスや老健から来た人もおり、イベントや散歩時に知り合いに出合う事も多く、馴染みの関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の価値観などを大切に、利用者同士の相性なども気かけながら必要に応じて職員が間に入り関わりが持てるように働きかけている。1人で過ごしたい場合もその時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても気軽に立ち寄って頂ける御家族もいる。又、必要に応じて相談できる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族の話の中から、その人らしさや想いを聞き取り、ケアに反映させるように努めている。	目標達成計画にも挙げて取り組んできた「人生歴」は、その内容も様式も素晴らしく、その人をより詳しく知ろう、理解しようとする心意気を感じられる。「思うままに自走したい」という本人の思いを受け、いつも車椅子で自走してもらっている人もいて、それぞれの意向を大切にしている。	素晴らしい人生歴の様式は、まだまだ新しく知り得た情報を追記する余白が十分あるように思えるので、その人の人生の物語を記録に残す作業を継続して下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や情報提供書、生活歴を参考にしたり、本人や御家族との話の中で知りえたこれまでの経緯について記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から1人1人の過ごし方について職員の気づきを活かせる機会を設け、心身状態や残存機能等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からどんな些細な情報でも共有するようにしており、月に1回のミーティングや担当者会議を通して、その時の本人の状況に応じたケアプランになる様に努めている。	「どう生きたいか」という私の想い。「どう生活して欲しいか」という家族の思い。双方の思いを生活に反映させる為には何が課題なのか、職員間で話し合っただけでケアプランを作成している。アセスメントや24時間シートを活用して、その人らしく生きるためのプラン作りをしている。	ケアプラン更新の為に定期的に作成しているアセスメントシートは綿密で、身体的、心理的な課題分析がしっかり出来ている。一人ひとりの状態をよく把握しているのが伺えるので、今後も「心のケア」につなげて下さい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方や気づき等、ケアプランに必要な情報を介護記録に記入し、職員間で情報共有しながらケアプランの作成や実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりを通して本人や御家族の想いを大切にし、必要に応じて同法人の老健や病院、市に相談することで、サービスの多機能化を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地条件が悪く地域の資源は十分ではないが市や地域の機関と連絡を取り合い、活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回エスポール病院の担当医に診察を受けている。また、状態の変化に応じ受診だけでなく、相談しやすい環境で支援体制が整えている。	母体病院の院長が7名の主治医であり往診もある。他の2名は院長以外の医師であるが、母体病院との距離も近くよく連携を取り合っている。他科受診が必要な時は紹介状を持って、常勤兼務職員の看護師と家族が同行しており、訪問歯科もあるので安心して生活出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がおり、日々の健康面・身体面・精神面を生活の中で見ている。スタッフも日々の生活の中で変化を観察しており、いつでも看護師に相談し、対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には医療連携をし、御家族や医療機関と話し合い・情報交換を行っている。必要に応じて情報提供書の作成も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な必要があれば相談し、指示をもらえる体制が出来ている。御家族と話し合いを重ね御家族の意向も大切にしている。御家族の意向や本人の状態を基にチーム内で話し合いを行い必要に応じて緊急でミーティングを行うことで情報の共有に努めている。	食事をセーブしたかったが、本人が皆と一緒に望んだので家族と相談したところ「本人の思うように…」という希望で、最期の1週間前まで皆と同じものを食べて、3日前には風呂も入ったと聞いた。最期まで「その人らしく」を貫いた人生を職員は見守り、そして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・事故発生時に備えたマニュアルを作成して、体制作りをしている。応急手当に関しては、看護師の指示のもと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。近隣のグループホームとの合同訓練も行っている。同法人内の委員会で、色々な場面で協力・対応出来るよう見直しを行っている。また、災害用ガスコンロや水、食事等の備蓄を用意している。	同敷地内の4つのGH合同で毎回いろいろなパターンで避難訓練をしている。法人との協力体制もあり、災害時の連携がよく取れている。地震等に備えて家具の転倒防止策も施しているし、ホームの備蓄はすぐ近くの老健の倉庫に保管してあると聞いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の価値観、想いを尊重し、それぞれの誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	人によっては声をかけ過ぎてはいけない人や話をしてもらいたい人もいますので、本人の想いに添った対応をしており、呼称も本人が慣れ親しんだ呼び方をして安心感を持ってもらう等、一人ひとりを尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話、スタッフとの会話の中での思いや希望を御家族に相談し協力を依頼したり、必要時にはミーティングをして実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りの入・退去もあり、その人らしい生活を十分に把握は出来ていない方がいることが現状だが、職員間で話し合いを随時行い、把握出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服、装飾品などその人らしくあるために本人、御家族と話しをして持って来て頂いたり、一緒に買い物に出て本人に選んでもらい、季節感も楽しんでもらっている。また、訪問美容も取り入れ希望の髪型にしている。馴染みの美容院に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器洗いなど一緒に準備出来るお年寄りには手伝ってもらう。行事や誕生日も大切にしており、味付けだけではなく見た目でも楽しめるように様々な食器での盛りつけをして、気をつけている。	このホームの一番のこだわりは「最後まで口から、好きなものを、好きなだけ」食べる事だと聞いている。三食職員手作りの美味しい食事は定評がある。今年は利用者と一緒に作ったぬか漬の漬物が食卓に上り、食べる楽しみに加えて、作る楽しみも加わったとの事。皆で一緒に食べる食事は尚の事美味しいに違いない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から食事の状況を気にかけており、利用者1人1人に合った摂取量を把握している。摂取量が少なければ本人の好みに応じて対応している。また、食事制限がある方には、看護師や主治医に相談しながら、見た目が他の方と変わらないように工夫をして食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携して、歯の不具合があれば往診してもらっている。その際にアドバイスや助言を頂く事もあり、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行いトイレで排泄できるように努めている。その際は他の方に分からないように配慮している。	各居室にトイレがあるので、自立の人は自分で行くが、声かけが必要な人は排泄状態を把握して誘導している。全員女性利用者なのでトイレ座位での排泄であるが、便秘気味の人が多いのでいろいろ工夫をして排便がスムーズにいくよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活により、出来るだけ自然排便出来るように促している。個々の病状に応じて看護師・医師に相談・診察してもらい、定期的な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決めず、1人1人に合わせている。お年寄りのその日の体調や気分に応じて、臨機応変に対応できるようにしている。	入浴は毎日可能であるが、本人の状態に合わせ1～2日おきくらいを目安にしている。拒否があっても、誘導する時「体重を測るから」と声かけすると入ってくれる人もいるようだ。リラックス出来る入浴タイムを利用して、いろいろな話をしてコミュニケーションを取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその日の体調や気分に応じて、休息を促している。気持ちよく眠れるために、レクリエーションで身体を動かしたり、歌会をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、説明書をいつでも確認できるようにしている。服薬の際には声掛けを行い、服薬後まで確認している。薬が変わった時は特に本人の様子を気にかけて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好み、意向を把握したうえで、本人に声かけをしながら、利用者の声を大切に、日々の暮らしが少しでも喜びのあるものになるように関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、行事の時・要望があった時など散歩やドライブ・買い物等、気分転換も兼ねて行っている。	職員のフットワークの良さと柔軟な対応を実感させてもらった。職員・利用者に誘われて一緒に笠岡ベイファームへ菜の花見学と買い物へ私達も同行。車内でBさんの道案内や思い出話を聞きながら、おしゃべりに花が咲いた。この様な「思いついたら即行動」は日常的との事。日課の散歩にお出かけする人達もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することは困難であるが、利用者からの訴えがあった時には一緒に買い物に行き、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等訴えがあれば応じているが上手く伝えられない場合もあり、スタッフが代弁したり必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう季節の花や絵等インテリアを工夫している。明るさや掲示物の高さ、本人に合った椅子等快適に過ごせるようその時の状態に応じて対応出来るように工夫している。	リビングは他のホームに比べると狭いが、その分利用者との距離感が短く、すぐ手が届くという利点がある。1ユニットだが1・2階それぞれにリビングがあるので、自分の居場所も十分確保出来、ゆっくり過ごせる。和風の木目調の空間やインテリアが癒しを感じさせる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は居室に自由に戻ることが出来る。共有空間では、利用者が思い思いに過ごせれるよう配慮し、気の合う者同士で席に座って、TVを見ることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は落ち着いて過ごせるよう御家族に協力をして頂き、馴染みのものを持ってきてもらい、写真や絵を飾りその人らしい部屋を作っている。	各居室はその人らしさを大事にした個性豊かな環境になっていて、使い慣れた愛着のある調度品が置いてある部屋や家族の愛情をいっぱい感じられる部屋もある。室内の手すりはその人に合わせた位置に取り付け、トイレの開閉式のドアは取り外して車椅子対応が可能等、過ごしやすい配慮がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、安全面に配慮している。エレベーター完備であるが、階段で降りたい方は階段で下りてもらうなど、出来ることを奪わないよう配慮している。		